

区分	講義・演習内容	概要	研修方式	想定時間 (hr)	目的別区分け
I-1	事例解析	民間企業、スタートアップ/ベンチャーなどで成功や失敗したパターンを構造化し、さまざまなケースを事例として取り上げる。またオープンイノベーションを積極的に取り組んでいる事例も紹介する。事例の中の課題を自らの視点で抽出し、解決できるような実践的な講義を目指す。ものごとの理解を深め、意思決定能力の向上を目的とする。	講義・演習	9	全体に係わる力
I-2	研究開発プログラム提案書 発表会	社会課題を起点とする研究開発プログラムを構想し、その提案内容と方向性を確認する場として発表会を年2回実施する。併せて出席するメンターから助言を頂き、得られたアドバイスやコメントを提案書作成に反映させる。	発表会	12	全体に係わる力
II-1	シナリオプランニング	不確実な将来に対応するシナリオプランニングは、経営戦略の場だけではなく、プロジェクトマネジメントを実践するうえでも極めて重要な考え方です。本講座では、プロジェクトを成功させるため、プロジェクトマネージャーはどのようなシナリオを描き、実践していくべきか、具体的なケースを用いて学びます。	講義・演習	4.5	社会ニーズを把握する力
II-2	ビジネスモデルイノベーション	先端的なビジネスモデルのイノベーションがエコシステム、製品、産業特性や技術とどのように関連しているか、また先端的なビジネスモデルの生成・発展プロセスなどを理解し革新的ビジネスモデルを策定する能力を身に付ける。	講義・演習	4.5	社会ニーズを把握する力
II-3	イノベーション創出	イノベーションと革新的技術や発明と何が違うのかということを理解したうえで、持続的にイノベーションを起こすために何をすればよいのか、それに必要な思考方法、方法論、知識を学ぶ。	講義	1.5	社会ニーズを把握する力
II-4	PM×コンバージェンス	いま解決が期待されている複雑かつ困難な社会課題や、まだ可視化・言語化すらされていない重要な課題に取り組むためのマインドセットと共創の習得を目指す。また、研修生間に新たなチームとプログラム・プロジェクトの構想の芽が生まれることにも期待する。	講義・演習	4.5	社会ニーズを把握する力
III-1	思考展開法	イノベーションを引き起こす技術(商品)の事業化を目標に定め、その目標達成に向けた研究開発計画を立案することを通し、PMとして必要な企画立案能力の獲得を目指す。	講義・演習	12	新たな価値を創造する力
III-2	プログラムデザイン	物事を多面的に捉え、共感を得る仕組みとしてデザイン思考のアプローチを理解し、イノベーション創出のためのプログラムデザイン手法の習得を目指す。	講義・演習	4.5	新たな価値を創造する力
III-3	ロジカルシンキング	構想を立案する上で重要なアジェンダ設定能力を養うため、主張と根拠の構造化(ピラミッドストラクチャー)を行い、論理構成を図式化することで、論点のコントロール手法を習得する。	講義・演習	4.5	新たな価値を創造する力
IV-1	ファシリテーション	国内外の様々なステークホルダーとの相互理解に基づいて、建設的な行動を引き出すために必要な手法を理解する。またプログラムコンセプトの企画・立案に向けたストーリーを描くための未来思考シナリオの手法を習得する。	講義・演習	4.5	プログラムを推進する力
IV-2	モチベーションマネジメント	プログラムマネージャーとしてイノベーションを達成するというモチベーションを向上させる手法を、経験者の講話から導き、習得することを目指す。	講義・演習	3	プログラムを推進する力
IV-3	組織マネジメント	研究開発プログラムを1つの組織として効果的に運営するためのチームビルディング手法やリスクマネジメント手法の習得を目指す。	講義・演習	4.5	プログラムを推進する力
V-1	知財戦略	研究成果と知財の管理・活用は、プロジェクトの成否を握る重要な要素である。ここでは、産学連携のプロジェクトにおける知財のマネジメントの重要性と、特に体制設計時のポイントを理解することを目指す。	講義・演習	3	プログラムを管理する力
V-2	研究倫理	プロジェクトを実施するに際し、研究不正を未然に防ぐ手法を習得すると共に、不正発生時に的確な対応を行うことで、その影響を最小限に抑制する手法の習得を目指す。	講義 (eラーニング)	3	プログラムを管理する力